政大日本研究【第十三號】
2016 年 1 月，頁 111～128

ノダ與“(是)…的”構句之對照研究
ー以「どこでそのかばんを買ったの？」為例ー

葉秉杰*

中文摘要

本論文以「どこでそのかばんを買ったの？」與“你是在哪裡買那個包包的”兩疑問句及其回答為例，分析了日語的「のだ」與華語的“(是)…的”構句。回答日語的「どこでそのかばんを買ったの？」問句時，「日本で買ったのだ」與「日本で買った」皆符合語法，「のだ」的使用並非義務性的。但是回答華語的“你是在哪裡買那個包包的？”問句時，僅能允許“我是在日本買的”這種說法，不能說“#我是在日本買了”，也就是說“的”的使用是義務性的。為了說明為何“的”的使用是義務性的，本論文導入了益岡隆志提出的“事件敘述”與“屬性敘述”，主張“了”為事件敘述，而“的”為屬性敘述。此外，先行研究指出“的”的使用受“先了後的”這一條件限制，但本論文指出，若陳述的內容為屬性結構之目的部門就不受此限制。

關鍵詞：の（だ）、“(是)…的”構句、事件敘述、屬性敘述、屬性結構

* 國立政治大學日本語文學系助理教授

A Comparative Study of “NO (DA)” and “(SHI)… DE” Construction

YEH,Ping-Chieh*

Abstract

In this paper I compare “NO (DA)” and “(SHI…) DE” by viewing interrogative sentence of Japanese “DOKODE SONO KABANWO KATTANO?” and interrogative sentence of Chinese “NI SHI ZAI NALI MAI NAGE BAOBAO DE?” and their replies. In Japanese, as an answer to DOKODE SONO KABANWO KATTANO, NIHONDE KATTA NODA or NIHONDE KATTA is allowed, the usage of NODA is not obligatory. However, for answering NI SHI ZAI NALI MAI NAGE BAOBAO DE although WO SHI ZAI RIBEN MAI DE is allowed, #WO SHI ZAI RIBEN MAI LE is ungrammatical. In other words, using DE is obligatory. To elucidate why the usage of DE is obligator, I claim that there are two types of predications as proposed by Masuoka. In my opinion, LE is event predication, but DE is property predication. In prior research, it is considered that we have to use LE befor using DE. However, I argue that DE could be used without a precede LE if there is a modifier of telic role of its qualia structure in that sentence.

Keywords: NO (DA), (SHI)… DE, event predication, property predication, qualia structure

* Assistant Professor, Department of Japanese, National ChengChi University

ノ（ダ）文と“（是）…的”構文の対照
—「どこでそのかばんを買ったの？」を例に—

葉　秉杰*

要旨

小論では「どこでそのかばんを買ったの？」と“你是在哪裡買那個包包的？”という疑問文及びその返答を例に、日本語の「の（だ）」文と中国語の“（是…）的”構文の分析を行った。「どこでそのかばんを買ったの？」の応答文は「日本で買ったのだ。」でも「日本で買った」でもよく、「のだ」の使用が義務的ではないが、“你是在哪裡買那個包包的？”という疑問文の応答文として、“我是在日本買的”のみ許され、“#我是在日本買了”が許されないように、“的”の使用が義務的である。なぜ“的”の使用が義務的なのかを解明するために、小論では益岡の事象叙述と属性叙述を導入し、“了”は事象叙述、“的”は属性叙述であると主張する。また、先行研究では“的”の使用に必ず“了”を使用した文が先行するという“先了後的”という制約があると指摘されているが、小論では、クオリア構造の目的的役割を修飾する要素であれば、その制約を受けないことも明らかにした。

キーワード：の（だ）、是的、事象叙述、属性叙述、クオリア構造

* 国立政治大学日本語学科助理教授

ノ（ダ）文と“（是）…的”構文の対照

—「どこでそのかばんを買ったの？」を例に—

葉　秉杰

1. はじめに

日本語の「の（だ）」文は以下に見るように、特定の場面で中国語の“（是）…的”構文に対応している。

（1） a.私は車で来たのだ。
　　b.我是搭車來的。
（2） a.私は車で来たのではない。
　　b.我不是搭車來的。
（3） a.これは何に使うの？
　　b.這個是要用在哪的？
（4） a.あなたはどうやって来たの？
　　b.你是怎麼來的？

日本語の場合、疑問詞疑問文（＝（3a）、（4a））の場合通常「の（だ）」が用いられる。しかし、疑問詞疑問文及びそれに対する返答における「の（だ）」の使用は義務的というわけではない。例えば、下記の（5a）、（6a）における「の（だ）」を取った（5b）、（6b）は文法的に不適格ということはない。

（5） a.（あなたは）どこでそのかばんを買ったの？
　　b.（あなたは）どこでそのかばんを買った？

（6） a.（私は）日本で買ったのだ[1]。
b.（私は）日本で買った。

中国語は上記の日本語の疑問詞疑問文及びそれに対する応答文に相当する文において“(是）…的”が使用される点で似ているが、日本語と異なるのは下記の例に見るように“(是）…的”の使用が義務的である点である。

（7） a.你是在哪裡買那個包包的[2]？
b.#[3]你?*是在哪裡買那個包包了？
（8） a.我是在日本買的。
b.#我是在日本買了。

（7)、(8）は（5)、(6）に対応する中国語である。日本語は（5)、(6）に見るように「の（だ)」の有無と関係なく、いずれも成立する。それに対し、中国語は（7)、(8）に見るように“(是）…的”を用いないと文として成立しない。

上記の文脈における日本語の例文の「の(だ)」は省略できるのに、なぜそれに対応する中国語の例文においては“(是）…的”を用いなければならないのだろうか。小論では日本語の「の（だ)」と比較しながら、上記の中国語の例文における“了”と“(是）…的”の使用条件を明らかにしたい。

---

[1] 『みんなの日本語　初級Ⅱ』台湾版『大家的日本語進階Ⅰ』にも下記の Ⅰ）の会話文が掲載されている。
掲載されている。（下線を引いたに注目されたい。）
Ⅰ）面白いバッグですね。どこで買ったのですか。
エドヤストアで買いました。
この会話文からも疑問詞疑問文に対する応答文において「の（だ）」を用いなければならないということがないことが窺える。
[2] （7a）は台湾で一般的に用いられる言い方である。
[3] 「#」は求められている意味とは異なることを意味する。

2. 考察範囲

先行研究で明らかにされたように、「のだ」と“(是)…的”は様々な相違点もあるが、類似点も数多くある。小論では、「のだ」と“(是)…的”の省略可能性及び使用条件に焦点を絞って考察することにする。また、考察対象は上記の（5）～（8）に見る、既に遂行された行為に対する疑問詞疑問文及びその応答文に限定する。

（9）（あなたは）いつ/どこで/なにで/そのかばんを買ったの？
（10）你是（什麼時候/在哪/用什麼）買那個包包的？
（11）（私は）昨日/市場で/現金で/そのかばんを買ったのだ。
（12）我是昨天/在市場/用現金買（那個包包）的。

また、「そのかばんはあなたがいつ/どこで/どうやって買ったの？」、“你那個包包是（什麼時候/在哪/怎麼）買的？”、“那個包包你是什麼時候買的？”のように同じ成分を使った語順の違う文もあるが、語用論的に意味が違う場合もあるため、小論では（9)、(10)の語順を中心に考察を行うこととする。

3. 先行研究

本節では「の（だ)」と“(是)…的”に関する先行研究を検討することとする。

3.1「の（だ)」に関する先行研究

野田（1997)、庵 et al.（2000）によれば、疑問文には、一、単に事態の成立を問う疑問文（＝（13))。二、事態の成立以外の部分を問う疑問文（＝（14)）の二種類あるが、後者の場合、「のだ」が必要となるという。

（13）緊張してる？

（14）ひとりで行ってたの？

野田（1997：120-121 一部改変）

（13）はただ聞き手が緊張しているかどうかという事態を訊いているため、「のだ」は不要であるが、（14）は聞き手が行っていたことを知っている上で（疑問文の前提）、ひとりで行っていたかどうか（疑問文の焦点）を訊いているため、「のだ」が必要となる。また、疑問詞疑問文も事態の成立以外の部分を問う疑問文であるため、原則的に「のだ」が必要である[4]。

（15）誰にきいたの？

野田（1997：123 一部改変）

しかし、以下のように、疑問詞疑問文における「のだ」の使用は省略され得るという。

（16）誰にきいた？

野田（1997：123 一部改変）

（17）田中さんは昨日何をしましたか。

庵 et al.（2000：286 一部改変）

久野（1973）、野田（1997）によれば、「のだ」が省略できるのは疑問詞がある場合、質問のフォーカスが明らかなためであるという[5]。また、疑問詞疑問文の返答文についても、「のだ」を用いるのが自然であるが、フォーカスが明らかであるため、省略されやすいという。ただし、野田（1997）によれば、「のだ」が省略された質問文自体が適格でも（＝（19））、状況 P の事情としての Q を問う場合、あるい

[4] 野田（1997）はこの種の「のだ」を「スコープの「の（だ）」」と呼んでいる。
[5] ただし、「なぜ」や「どうして」が用いられた質問文では「の（だ）」の使用がほぼ必須である（野田 1997:123-124）。

は話し手が Q を認識したいという心的態度を示すといった場合も「のだ」[6]を用いないと不自然になる（＝（18））。

（18）しかし、或る午後、貞春が昼の散歩から帰って来ると、後から「先生」と軽く息を切らしながら追っかけて来たのが千砂であった。
「おや、どこへ行ったの？」
（19）#「おや、どこへ行った？」

野田（1997：129）

また、応答文で、状況 P の事情として Q を提示する場合、「のだ」が省略されると不自然な文になるが、話し手が Q を認識したいという心的態度を示す疑問文への返答文ならば、「のだ」を用いる必要がないという。

3.2“（是）…的”と“了”に関する先行研究

過去に行われる動作を述べる時に“（是）…的”または“了”が用いられるが、どのような場合に“（是）…的”、どのような場合に“了”が用いられるかは様々な議論がなされている。吕必松（1982）は単に客観的な事実を述べる時には“了”が用いられ、時間等を強調する時に“（是）…的”が用いられると主張している。また、“（是）…的”が一つの構文であるため、“是”は“了”と共起しないと主張している。荒川（1997）は “（是）…的”構文は、必ずではないが、動作の実現（完了）そのものより、時間、場所、方式、主体等に焦点があるときに使われると主張している。また、“（是）…的”を使うか“了”を使うかは、文の焦点がある点にあるか、全体にあるかによって変わると述べ、例えば、“瞧！誰來了”と“誰跑出教室去了？”は“誰”が焦点ではなく、できごと全体が問題となっているため、“（是）…的”ではなく“了”が使用されると説明している。杉村

[6] 野田（1997）はこの種の「のだ」を「ムードの「のだ」」と呼んでいる。

（1980：87）は“半年來我一共畫了四張畫，多半還是夜裡畫的。”という文に見られる“了”が“的”に先行するという“先了後的”現象に基づき、“的”の使用は動詞が表す事態の実現を前提としていると説明している。

上記の先行研究や刘月华・潘文娱・故韡（1991）など、多くの先行研究では“（是）…的”は過去に行われた動作の時間などを強調する場合に用いられるとされているのに対し、王光全（2003）は一、動作が過去に行われたという条件は“的”の使用の必要条件ではなく、充分条件である[7]。二、その元となる、命題のみを表す非強調の文も存在しているはずであるが、実際非強調の文が存在しない場合が多い。三、通時的に見て“的”は“了”から分化した過去完成を表すマーカーであり、“的”と“了”が相補分布をなしているといったことから、“（是）…的”の使用は強調するためではなく、強制的だと主張している。

4. 省略できる「のだ」のタイプと省略できる理由

本節では、先行研究の議論に基づき、冒頭で取り上げた日本語の疑問詞疑問文「どこでそのかばんを買った（の）？」及びその返答文「日本で買った（のだ）」を検討することとする。

「どこでそのかばんを買ったの？」は事態の成立を問うのではなく、事態の成立以外の部分が焦点である疑問詞疑問文である。そのため、原則的に野田（1997）が提案したスコープの「の（だ）」の使用が必要である。しかし、実際の使用において、「の（だ）」の使用が省略され得る。その理由は焦点が明らかだからだとされている（久野 1973、野田 1997）。また、その返答文における「の（だ）」の使用

[7] つまり、過去に行われた動作に対する叙述であれば、必ず“的”を使わなければならないわけではないのである。王は下記の例文における“买”が発話された時点で実行されていないにもかかわらず、応答文には“的”が使用されていることから、「動作が過去に行われた」というのは現実になく、話し手（及び聞き手）の認知に存在していればよいと主張している。

Ⅱ）「多少钱买的这沙发？」
「我在街口捡的」

王光全（2003: 19 一部改変）

が省略できるのも同じ理由に基づいていると考えられる。つまり、文の焦点が明らか（＝疑問詞の部分を補う情報）だからである[8]。

しかし、ここまでの論述では文脈を考えていなかった。実際、かばんを買った場所ではなく、かばんが発話時になぜ存在しているのかという状況 P の事情としての Q を問う（つまり、関係づけの）場合、野田（1997）が提案した「ムードの「のだ」」を用いないと不自然になると考えられる。

（20）どうしてかばんがあるのかという状況 P の事情 Q が知りたくて）
どこでそのかばんを買ったの？
（21）?どこでそのかばんを買った？

この場合、状況 P の事情としての Q を提示する返答文も「のだ」を用いるのが自然だと考えられる。

（22）日本で買ったのだ。
（23）?日本で買った。

まとめると、小論の考察対象である「どこでそのかばんを買ったの？」は野田（1997）や庵 et al.（2000）によれば、原則的に「のだ」を用いるはずである。しかし、疑問詞疑問文及びその返答文で焦点が明らかなため、(野田 1997 が提案したスコープの)「のだ」を省略してもよい。但し、かばんを買った場所ではなく、かばんがなぜあるのかという状況 P の事情としての Q を問う場合、「のだ」を用いないと不自然になる。

[8] 筆者が日本語母語話者に訊いたところ、「のだ」が省略された表現で「日本で買った」より「日本で買いました」という丁寧体で表現された文のほうが自然であると感じる母語話者がいた。つまり、「のだ」の省略可能性は文体とも関係していると考えられる。

5. 理論的な枠組み

繰り返して述べてきたが、日本語の「のだ」が疑問詞疑問文及びその応答文で省略できる理由は、文の焦点が明らかだからだとされている。しかし、中国語の“(是）...的”は日本語の「のだ」とは異なり、“你是在哪裡買的?”が“#你是在哪裡買了?”に言い換えられないように疑問詞自体が文の焦点であることが明らかでも使用が求められている。中国語の“(是）...的”の使用条件を説明するために、本節では以下の議論に取り入れる理論的な枠組みを概観する。

5.1 事象叙述と属性叙述

益岡（2008: 4）によれば、「属性叙述」とは、「ある対象が有する属性を述べるもの」であり、日本語の文レベルでは（24)、(25）のように、基本的に「主題＋解説」という有題文の形で示される。また、「事象叙述」とは、「特定の時空間に実現するイベント（出来事）を述べるもの」であり、日本語の文レベルでは主題が要求されない限り、(26）のように、無題文で表される。また、時空間性を志向するという特徴から、テンス、アスペクトに深く関わっている。

（24）日本は島国だ。
（25）あの人は優しい。
（26）子供がにっこり笑った。

益岡（2008：4-5）

叙述の類型という概念は益岡（1987）や影山（2006）などに見られるように、日本語の語レベル、文レベルに関する言語現象を幅広く説明できる。筆者は「事象叙述」と「属性叙述」の区別は中国語の“了”と“的”の使用を説明するにも有効であると考える。先に結論を述べると、「事象叙述」の場合には“了”、「属性叙述」の場合には“的”が用いられると考えられるため、“的”を用いた文を“了”

に言い換えられないのである。5 節では、この二つの概念を踏まえ、考察を進めることとする。

5.2 クオリア構造

クオリア構造（qualia；特質構造とも（影山 1999））とは Pustejovsky（1995）[9]が提案した名詞の意味構造で、四つの役割によって構成されているものである。

（27）構成的役割（constitutive role）：事物とその構成素との関係
形式的役割（formal role）：上位概念における事物の特徴づけ
目的的役割（telic role）：事物の目的と機能
産出的役割（agentive role）：事物産出に関わる要因
吉村（2003：228）

例えば、「本」のクオリア構造は概略的に次のように表示される。

（28）構成的役割：人工物
形式的役割：紙・情報
目的的役割：読む
産出的役割：書く
吉村（2003：229）

上記の 4 つの情報の中で、動作に関わるのは産出的役割と目的的役割である。まず、産出的役割を見るが、これはモノの産出について記述されるものであるため、「誰が」、「いつ」、「どこで」、「どうやって」、「何をどうしたか」などがすべて産出的役割に記述されることになる。「本」に即して言えば、「本の著者がとある特定の時点に自分の書斎などでペンやパソコンで書いた」と考えられる。次に、

[9] 以下クオリア構造に関する議論の多くは吉村（2003）に負うものである。

目的的役割を見るが、人工物などのモノの用途は一般的に定められているが、一時的に転用される場合もある。例えば、銀行は一般的に「預金の受入，資金の貸付，手形の割引，為替の取引などを主たる業務とする金融機関」（『大辞林　第三版』ネット版）と思われているが、「暑い時期の「涼みどころ」であり得る」（吉村 2003：230）。

次節で取り上げるが、筆者は先述したように、小論の中国語の考察対象の“（是）…的”構文が属性叙述文であると考える。また、目的語に当たる名詞のクオリア構造が叙述の対象であれば、3.2 節で言及した“先了後的”の制約を受けない場合もあると考える。

６．中国語の“（是）…的”と“了”の使用条件

（7a）、（8a）を（29）、（30）として再掲する

（29）你是在哪裡買那個包包的？

（30）我是在日本買的。

1 節では“的”を“了”に置き換えると、不適切な文になってしまうとした。吕必松（1982）の主張によれば、“（是）…的”を“了”に置き換えられないのは、“（是）…的”が一つのセットであることに起因しているということになる。しかし、“我是在日本買了”という文自体が非文であるわけではなく、共起しないとされている“是”と“了”は実際、特定の文脈においては共起する場合もある。例えば、“我是在日本買了”は“你是在哪裡買那個包包的？”に対する応答文ではなく、以下のような場面であれば、成立可能である[10]。

（31）A：「你怎麼又買了一個？不是在日本買了嗎？」

[10] “是”と“了”が共起する表現は他にも見受けられる。例えば、
Ⅲ）你是怎麼了。
Ⅳ）你是什麼時候去日本了。
Ⅴ）人是來了，東西還沒到。
Ⅵ）他現在是爸爸了。
などである。

B：「我是在日本買了，但是因為後來覺得不喜歡，所以又買了一個。」

では、“（是）…了”と“（是）…的”はどのように捉えればよいであろうか。“（是）…的”は上記のように“（是）…了”に言い換えられないため、“（是）…的”と“了”が相補分布をなしており、“的”の使用は強調ではなく、強制であるという王光全（2003）の主張は妥当であろう。筆者は王光全（2003）の主張及び“（是）…的”と“了”の焦点が異なるという荒川（1997）の主張を踏まえて、“（是）…了”と“（是）…的”がそれぞれ意味の違う構文だと考える。以下は“先了後的”という杉村（1980）が指摘した現象を切り口に“（是）…的”と“了”の使用条件を検討していきたい。

杉村によれば、“了”は行為の遂行の有無に焦点が置かれるが、“的”は行為が遂行された時間や場所に焦点が置かれる。実際の発話では大抵ある行為が先に述べられ、その行為が遂行された時間などが質問の対象になるため、“了”が“的”に先行すると考えられる。しかし、実際、“先了後的”に反する現象も見受けられる。

（32）？你送禮物給誰了？送給誰的？
（33）你是要送禮物給誰的？送了嗎？

杉村（1980）の説明によれば、“的”は“了”に先行し得ないことになる。しかし、上記の（32）、（33）に見るように、この場合はむしろ“的”が“了”に先行する（33）のほうが自然である。つまり、杉村の“先了後的”という説明はそのまま小論の考察対象に通用しない。しかし、“了”は一般的に行為が遂行されたかどうかに、“的”は一般的に行為が遂行された時間や場所などに焦点が置かれていると考えるのは妥当であろう。“的”はまだ行われていない動作を述べる時にも用いることができることから、過去に行われた動作の時間等を強調する場合に用いられるのではないと小論は考える。小論の

考察対象に限って言えば、“的”を“了”に置き換えられない決定的な理由は“你是在哪裡買那個包包的”という発話が“你是在哪裡買的那個包包”にもなる[11]ように、発話の焦点が「買」という行為自体ではなく、“包包”（の属性）にあるからと考える。では、“包包”の属性になり得る要素はどのような要素なのか。ここで、5.2 節で取り上げたクオリア構造を導入したい。既に述べたように、クオリア構造とは名詞の意味構造で、4 つの役割によって構成されているものである。そして、4 つの情報の中で、動作に関わるのは産出的役割と目的的役割である。まず、産出的役割を見るが、“我在日本買的”は“包包”の由来についての叙述であるため、産出的役割に記述されることになる。次に、目的的役割を見るが、”包包”は一般的に「物を入れて持ち運ぶための用具」であると思われるが、「プレゼントとして誰かに贈るためのもの」も目的的役割になり得る。

産出的役割は“包包”の発話時に発話の現場に存在する経緯を記述するものであるため、過去に行われた行為に関する時間や場所も含まれているのに対し、目的的役割は過去に行われた“包包”に関する行為についてではなく、“包包”がこれからどのように使われるかを記述するものであるため、“先了後的”の制約を受けない。

“的”を“了”に置き換えられない問題に戻ると、“你是在哪裡買的”（産出的役割）にせよ、“你是要送給誰的”（目的的役割）にせよ、いずれも“包包”に対する属性叙述だと考えられるのに対し、“了”はかばんを買った”という出来事に焦点があるため、事象叙述だと考えられる。そのため、“你是在哪裡買的？”という“包包”の属性を問う疑問文に“我在日本買了”という“了”を用いた事象叙述文を用いて返答すると不適格になのである[12]。

---

[11] 刘月华・潘文娱・故韡（相原訳 1991：652）は次の例文を取り上げ、
Ⅶ）他是一九七七年上大學的
Ⅷ）他是一九七七年上的大學
「“是…的”内の動詞が目的語をとる場合、その目的語は動詞のすぐ後につけて“的”の前に置くこともでき、また“的”の後に置くこともできる。口語では“的”の後に置くことの方が多い」と述べている。

[12] 一名の査読者から、“護照在機場弄丢的”、”小孩是在池袋走失的”、”

以上の考察結果を次の表のようにまとめる。

	了	（是）…的
例	我在日本買了	我在日本買的
叙述の類型	事象叙述	属性叙述
焦点	行為の遂行	モノのクオリア構造などの属性

表．“了”と“(是）…的”の相違点

7. 終わりに

小論では、「どこでそのかばんを買ったの？」及び“你是在哪裡買那個包包的？”を例に日本語のノ（ダ）文と中国語の“(是）...的”構文の分析を行った。一見完全対応している「のだ」と“(是）…的”における相違点を明らかにすることは、日本語教育や中国語教育において意義があることと思われる。

「のだ」は焦点が明らかかどうか、発話者の心的態度で省略可能性が変わる。それに対し、“(是）…的”と“了”は焦点が明らかな疑問詞疑問文でも入れ替えることができない。本稿では、両者を入れ替えられない理由として、“(是）...的”はモノに対する属性叙述であるのに対し、“了”は事象叙述だからだと主張した。両者の叙述類型が異なっているため、属性叙述の“(是）...的”疑問文に対し、事象叙述の“了”文で返答できないと考えられるのである。

では、“(是）...的”と「のだ」の使用条件はなぜ本稿で見たような相違点があるのか。筆者はその答えは形態変化の有無に求められ

祖父很久以前就過世的”などの文は“護照”、“小孩”、“祖父”の属性を叙述しているとは考え難いとの指摘があった。確かに、上記の文はいずれも査読者の指摘の通りである。しかし、文における動詞をじっくり観察すれば、いずれも消滅を意味する動詞であることに気付く。消滅を意味する動詞であるため、モノの由来を産出的役割に記述することは原理的に不可能である。

これらの“(是)…的”を用いた文は事象叙述と考えるほうが自然であるが、なぜ一つの形式（“（是）…的”）で二種類の叙述類型を担い得るか、動詞と関係があるか、別稿で詳しく考察したい。

ると考える。つまり、「のだ」は過去もしくは完了を示すマーカー「た」の後ろにつく形式であるのに対し、“的”は“了”の後ろにつく形式ではなく、両者は共起せず、相補分布をなしている構文だからだと考えられる。詳しくは別稿で考察したい。

また、小論では取り扱わなかった他のタイプのノダ文や“(是）…的”構文、「のだ」と叙述類型の関係なども今後の課題としたい。

参考文献

日本語の文献

荒川清秀（1997）「“是～的”」構文？それとも“了”？」『中国語』454、26

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

影山太郎（2006）「外項複合語と叙述のタイプ」益岡隆志・野田尚志・森山卓郎（編）『日本語文法の新地平 1』1-21、くろしお出版

影山太郎（2009）「言語の構造制約と叙述機能」『言語研究』136、1-34

久野暲（1973）『日本文法研究』大修館書店

久野暲（1983）『新日本文法研究』大修館書店

杉村博文（1980）「「の」「のだ」と「的」「是……的」」『大阪外国語学報』49、75-89

杉村博文（1992）「「是….的」－中国語の「のだ」の文―」『講座日本語学 12:外国語との対照Ⅲ』155-172、明治書院

田野村忠温（1990）『現代日本語文法Ⅰ：「のだ」の意味と用法』和泉書院

名嶋義直（2007）『ノダの意味・機能』くろしお出版

野田春美（1997）『「の（だ）」の機能』くろしお出版

益岡隆志（1987）『命題の文法』くろしお出版

益岡隆志（2008）「叙述類型論に向けて」『叙述類型論』3-18、くろしお出版

中国語の文献

董雪嬌（2015）「“（是…的）” 構文の意味特性と使用条件―動相助詞“了”を伴う構文との比較対照を通して－」『現代社会文化研究』60 号、17-31

刘月华・潘文娱・故韡（1991）相原茂・片山博美・守屋宏則・平井和之訳『現代中国語文法総覧（下）』くろしお出版

吕必松（1982）「关于“是…的”结构的几个问题」『语言教学与研究』第 4 期, 21-37

王光全（2003）「过去完成体标记“的”在对话语体中的使用条件」『语言研究』23 巻 4 期、18-25

赵淑华（1979）「关于“是…的”句」『语言教学与研究』第 1 期, 57-66

その他の文献

スリーエーネットワーク（1998）『みんなの日本語　初級Ⅱ』『大家的日本語 進階Ⅰ』大新書局

松村明（編）（2006）『大辞林　第三版』三省堂、https://kotobank.jp/dictionary/daijirin/

付記

小論は三名の匿名の査読者の方から貴重なコメント及び指摘を頂いた。ここでお礼を申し上げる。なお、論文にある不備はすべて筆者の責任である。